



西校SSHたより

SSH
Super Science High school

令和7年 4月 28日

宮崎西高校・宮崎西高校附属中学校
第14号 SSH推進部
作成者:Mizo

8人のメンバー

3年7組

日高洸城(化学)

中武源貴(物理)

木村 杏(生物)

本田 光(生物)

3年8組

大迫 結(地学)

野村昌平(数学)

園野優成(実技)

3年9組

天野 暖(情報)

全てのメンバーが

実技に参加



令和7年3月21日(金)~24日(月)まで、茨城県つくば市で「第14回科学の甲子園全国大会」が開催された。宮崎県代表の本校チームは総合成績全国ベスト16と健闘した。以下は、彼らが後輩チームに贈る戦い方のアドバイスである。

科学の甲子園はチーム8人で挑む大会。今年の予選会は9月に予定。本校から上位3チームが県予選に参加できるよ。



「アップン」君

科学の甲子園とは

O「初めて私が輝けた場所だった。」

H「僕を科学の世界へといざない、興味関心の幅を広げてくれたかけがえのない大切な存在。」

N「『失敗を考える』という原点に戻ることができた存在。決して自分に驕らず、努力、工夫する大切さを学んだ。」

N「想像力を刺激し、期待と興奮と感動で胸がいっぱいになる最高の大会。僕の青春のハイライトで、この記憶はこれからも僕を鼓舞し続けてくれると思う。」

公開課題競技の成功

D「公開課題は、競技前日のホテルや直前まで改善できる点についてチームメンバーと議論を続けた。その努力が実を結んだと思う。」

H「公開課題の実技 昨年は本番でのアクシデントで悔しい結果となったが、今年は全員で念入りに準備を行い、本番で想定通りの結果を出すことができた。大学の先生からの事前指導も非常に効果的であった。」

N「みんなで製作したフライホイールカーがバンプ(山)を越えた瞬間が忘れられない。」

後輩たちへ

H「県予選15連覇を必ず達成してほしい。そして全国大会で私たちの無念を晴らしてほしい。」

N「泉ヶ丘や大宮には負けたらだめ!絶対!」

H「科学を好きになること。広く深く学ぶこと。一人ではできないことも、仲間がいれば解決できる。ともに高めあうことのできる仲間をぜひ見つけてほしい。」

第16回

科学の甲子園

悔しかった生物実験の失敗

H「生物の実験PCRは、実験が失敗し本当に悔しくチームに申し訳なかった。」

K「生物の実験は、限られた時間でいかに素早く、しかし丁寧を忘れずに取り組めるかが問われた。初めての慣れない作業で苦戦し、思う結果が得られず非常に悔しかった。」

A「生物の手動PCRでは、器用さと経験が必要不可欠。時間が足りない経験と失敗した経験をしておくべき」

上位チームのすごさ

N「個々の力で劣っているとは思わないが、チーム全体で見たとき、 $1+1=2$ 以上にできているところが強かったと思う。また、失敗をどう生かすか(あきらめない、しっかり反省する)という点も優れていた。」

D「圧倒的な実験スキルとその経験量が違う。最新の機器などを使い慣れているかは重要なポイントでした。」

O「筆記競技でかなり良くできた感触があったにもかかわらず、順位の開示を見ると47都道府県中22位だった。参加者はみんな高い実力があって、筆記はよく出て当たり前という世界なんだなと痛感した。」

宮崎県が全国優勝する日

A「今まだやってこない。中学や高校一年で化学・生物の実験をいくつかこなさないといけない。自分たちは宮大でやったが、教授のガイドがあったがゆえに失敗するということが少なかった。実験を失敗するという経験を積む必要がある」

K「個人の能力を高めるのは言わずもがなですが、先生方やもちろんチームメンバーの力を最大限に生かして準備を重ねれば、不可能ではないと思います。」